

平成29年1月10日（火） 知事記者会見

知事

皆さんおはようございます。

今日は大変良いお天気となりました。

山形市では恒例の初市が開催されます。ぜひ多くの方々が集って賑やかな初市になればいいなと思っているところです。

また、この時期は日本海の冬の味覚を代表する寒鱈にちなんだイベントが庄内各地で開催されます。

1月15日、日曜日には、鶴岡市の鶴岡銀座商店街で「日本海寒鱈まつり」、そして、遊佐町西浜地区のマルチドーム“ふれんどりい”では「ゆざ町鱈ふくまつり」が開催されます。また、22日には、鶴岡市の道の駅“あつみ しゃりん”で「しゃりん寒鱈まつり」、28日から29日までは、酒田市中通り商店街をはじめ4つの会場で「第30回酒田日本海寒鱈まつり」が開催されます。さらに、29日には、鶴岡市の由良コミュニティセンターで「由良寒鱈まつり」が開催されます。寒鱈というのは、本当に山形県の庄内地方のですね、この時期の味でございますので、ぜひご家族でご賞味いただきたいというふうに思います。

次に、国際交流イベントについてのご紹介であります。

お手元に資料を配布しておりますが、1月14日に、黒龍江省ハルビン少年芸術文化訪問団との国際文化交流会が、酒田市ひらたタウンセンターで開催されます。黒龍江省と山形県とは姉妹県省を締結しておりまして、確か去年は、庄内町で開催されたと記憶をしております。

ハルビン少年芸術文化訪問団は、中国で最も歴史があり中国四大少年宮といわれているハルビン少年宮を中心に構成されております。本県からは、今年度の全日本合唱コンクール全国大会で金賞を受賞した鶴岡市立鶴岡第三中学校の合唱部や、酒田市の檜橋神代神楽（ならはしじんだいかぐら）保存会の皆さんからご参加いただく予定となっております。入場は無料でありますので、ぜひ、多くの皆様から会場に足をお運びいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

私からは、以上であります。

☆ 代表質問

記者

幹事社の読売新聞の井上です。

3期目を迎えるにあたりまして、知事の2期目の反省点ですとか、課題、その他3期目に向けての意気込みを改めてお願いします。

知事

はい。このたびの知事選挙におきまして、引き続き、県政執行という重責を担わせていただくこととなりました。改めて責務の重さで身の引き締まる思いがしているところであります。

2期目の反省点、課題というご質問でありますけれども、やはりずっと続いていてなかなかその成果が上がらないと言いますか、大変にこう、これからも取り組んでいなければいけないと思っているのは、最重要課題、「人口減少対策」だと思っております。

現在、政府と地方を挙げて人口減少対策に取り組んでいるところでありますけれども、本県をはじめ地方における人口減少が続いております。その一方で、首都圏への一極集中の勢いが止まっていない、加速しているという状況だと認識をしております。

2期目の県政運営におきましては、「合計特殊出生率1.70」、また「待機児童ゼロ」、「製造業付加価値額1兆円」というふうに、高い目標を掲げて各般の施策に取り組んできたところでありますけれども、引き続きしっかりとそれらの達成に努めてまいり所存でございます。

いろいろ視点を変えたりもしながら、また、政府に要望、また提案、提言というようなことも行いながらしっかりと取り組んでいきたいというふうに思っております。

3期目の県政運営ということでありまして、私は、公約としまして、やまがた創生のための「5つのチャレンジ」ということを掲げているところであります。そのことにしっかりと果敢に挑んでいきたいというふうに思っております。

1つ目はですね、「県民総活躍」なのでありますけれども、性別や年齢、障がいの有る無しに関わらず県民の皆さん誰もが、お一人お一人が能力を発揮できるという、そういう県民総活躍を掲げております。

2つ目が「産業イノベーション」を掲げております。この産業というのがですね、農業も工業も商業も観光も含んでいるところです。常に進化していかなければならないという思いをこめて、イノベーションという技術革新という言葉を使いました。本当に連携しながらですね、市町村とももちろん連携しながら、また現場のお話をしっかりお聞きしながら、イノベーション、山形県が常に進化を続けるというような方向で取り組んでいきたいというふうに思っております。

3つ目が「若者の希望実現」を挙げました。子育て支援、それから正社員化などの格差是正ということで掲げているところです。

4つ目が「健康安心社会」なのでありますけれども、これは、がん対策、また防災対策、そういったことをしっかりと取り組んでいくことで県民の皆さんが安心して生き生きと暮らしていける、そういう社会にするということでもあります。

5つ目は「県土強靱化」を掲げております。これは地方創生、あるいはやまがた創生、地域経済活性化という場合にはもう、社会インフラが欠かせないというふうに思っております。山形県の場合はまだまだ社会インフラが脆弱でありますし、道路をはじめですね、本当に、社会インフラをしっかりと整備促進していく必要があるというふうに思っております。

特に、というようなお話でありますけれども、「若者に対する取組み」ということを挙げたいというふうに思います。

一人一人の希望というものがあるわけなのですけれども、結婚・出産につながったり、また貧困に伴う格差の是正に結び付くということを考えますと、正社員化ということです、やはり力を入れていきたいというふうに思っております。

それから、私が直接県内各地に出向いて若者の考えていること、また、その意見というようなことをお聞きする機会を作っていきたいというふうに思っています。そういう対話ということです、取り組んで、その地域で彼らがいかに必要とされているかというようなことをです、お伝えしたいと思いますし、また生きるということはどういうことかとか、働くことは、あるいは幸せとは何かとか、その地域での課題、長所、短所、そういったものを認識していただいて、その地域で活躍していただきたいという思いをこめてです、話し合いなどができればいいというふうに思っているところです。そういったことをすることで、県外流出の抑制に繋がったり、また、県内回帰、「県内回帰」というのは、いったん出て行ってからまた戻ってくるということであるとすると、そういったことに繋がっていくのではないかと考えておりますし、これからますます高齢化が進むという現状がありますので、長寿の方にはますますお元気で活躍してもらいたいというのがありますが、若者にです、もっともっと元気を出してもらいたいという気持ちがあって、またそのご自分たちの声を上げてもらいたいという気持ちで取り組んでいきたいというふうに思っております。

こういった取組みを通して、県民の皆さんお一人お一人の力を発揮していただいて一緒になって「やまがた創生」を実現していければなというふうに思っているところです。

☆ フリー質問

記者

知事、おはようございます。朝日新聞の前川でございます。

県議補選のことを伺いたいのですが、今週の金曜日ですかね、13日に告示になる西村山郡の県議補選ですけれども、それにお二人立候補表明されておまして、無事と言いますか、22年ぶりに選挙になる見込みでございます。1人は、知事の後援会の大江町の幹部の方でいらっしゃるようで、知事もお電話したりとか、あるいは立候補要請に至っては、背中を押したようです、等々主張されている方もいらしてです。問われるのはおそらく、知事3期目に入って、2期目以降、県政そのものが問われるのも2年ぶり位の選挙になるので、県議補選、たとえば知事はどちらかの候補者のマイクを握るのかとか、あるいは、この選挙で問われそうなことは何かとか、何かそのようなご所感を伺えればと思います。

知事

そうですね、どういったことを主張されるかということでもありますけれども、報道を通

してですね、認識をしているところです。もちろん私の応援者である方はですね、人柄もよく存じておりますし、本当に素晴らしい勇気のある方であります。その奥様もですね、私の中学校の2年先輩というようなこともあってですね、よく存じ上げている方でありまして、本当に元気で気力に溢れてですね、地元愛も強いという方でありまして、大変こう地域のために働いてくださる方だなというふうにはずっと思っておりました。

ということで、あんまりそのコメント、そんなにしないほうがいいのかなということも思っております。やはり、決めるのはその地域の方々だというのが大前提だと思っております。

ただ、やはり、そうですね、県政を問われるということでもありますけれども、報道を通してはやはり、意見を申し上げるという方と、それから協力しながら地域を発展させたいという、そういうお二人なのかなと思っております。はい。

記者

知事、知事選の初日の5日の日ですね、選挙カーで山形の後、大江町に行かれたと思うのですが、その時、松田さんの事務所にお寄りになって激励したとされているのですが、なにかやはりそちらの陣営に思い入れがあるのでしょうか。

知事

思い入れはもちろんありますけれども、4年前にも同じところに行っておまして、私の出身地というようなことで、4年前にもやはり、寒河江市・大江町というところはですね、行っております。ですからそのコースはほとんど同じだったという内容なので、特別そのことを意識したわけではありません。ただ私の応援者なので、行けばいっしょやるわけですね。そうするとやはり、激励したくなるというのが人情かなと思っております。はい。

記者

ありがとうございます。

知事

はい。

記者

NHKの池川です。よろしくお願ひします。

先ほどのお話の中、人口減少の話があったかと思うのですが、公約の中でですね、知事からお話があったように、「合計特殊出生率1.70」という目標、今回の公約にも掲げられて、前回は掲げられて、なかなか達成できていないと。「1.70」は、そもそもですね、全国都道

府県の中でも達成しているのは沖縄、島根、宮崎、鹿児島、の4つしかない。山形県は「1.48」と、これはかなり高いハードルだと思うのですが、3期目4年間の間で「1.70」を達成、仮にされる目標だとするならばですね、どういう道筋を描いていらっしゃるのか、ちょっと具体的に教えていただけますか。

知事

道筋、そうですね、若者の希望ということで、結婚する、家庭を持つ、というようなことをですね、あと、子育てもするというようなことを希望しておられる方々は調査してもちゃんと、結構多いということを知っています。その希望が叶うようにするということがやはり行政としてできることなのかなと思っています。

そうしますとやはり、社会に出る若者は毎年ぞくぞくと、減少気味ではありますけれども、いらっしやいます。まず就職という段階でね、まずその前に進学ですか。進学というような段階で、やはり県内でできるだけ進学できる場を増やすということでやはり少しずつ努力をしてきました。

また民間でも動きがありまして、今年の4月から専門学校が山形市内で開校いたします。大変大きな期待を私は持っているところです。そういったところから始まって、就職のときにはですね、今まで県内のものづくりの企業がいいところたくさんあったんですけども、知られていないのではないかと思いますので、そのことを子どものころから知っていただく。中学、高校のときにはさらに知っていただくということが必要だと思ひまして、サイトを開いたり、またガイドブックという形でですね、渡したり、小学校、中学校で渡したりもしております。そういったことをもっともっと取り組んで、その企業数を増やすといいますかね、そういうことで紹介する数を充実させていくということが大事なかなと思っています。県内に就職して、定着できる環境を整えていくということが大事なかなと思っています。

それから、そういったことに取り組む一方で精神的な郷土愛というものをですね、醸成しなければ、やはりすべて給与とかそういうこと、賃金とかそういうことだけであれば、もう都市のほうが、大都会のほうが高いわけでありまして、そういう視点だけでなく、いかにここ山形県内での暮らしというものが、お金にかえられないような素晴らしいものがあるということをですね、やっぱりお伝えしなければいけないと思ひしております。私たち自身がそれをもっと再認識して、伝えていかなければならないと思ひています。それは文化でありましたり、スポーツでありましたり、伝統でありましたり、また地域の絆でありましたり、いろいろなことがあるんですけども、それは本当にお金にかえられない質の、質的な意味でよい人生が送れるというようなことをですね、もっと対話でありましたり、あと県民みんな、一人一人でありましたり、いろいろな機会をとらえてそういったことをね、意識というものを醸成していければいいなと思ひています。

そして結婚でありますけれども、やはり家庭生活と職業生活がですね、両立できるとい

うことが大事なんだと思いますので、ワークライフバランスというようなこともね、できるかぎり取り組んでいかなきゃいけないとっておりますし、あと出会いというものも本当に場が少なくなっているのが、大変大きなことなのかなと思って取り組んできましたけれども、さらにそういったところを充実させていかなければいけないと思います。併せまして、子育て支援、教育支援というようなことをですね、本当に総合的にやっていかなきゃいけないと思いますので、もうこれまで以上にですね、先ほど正社員化っていうことも申しました。やはり若者が安心して生活できるそういう環境をソフト、ハード両面からですね、整えていく必要があるのではないかと。整えていく必要がもちろんあるんですけれども、力を入れていく必要があるのではないかと考えています。道筋っていうご質問に合ったでしょうかね、この内容が。

記者

知事、この 1.7 は、この 4 年のうちに達成できると思いますか。

知事

達成できると思ってやっていかなきゃいけないとっています。高いハードルだと思っていますが、やはり「このくらいならできる」というようなことではなくて、やっぱりきちんと将来の 2.1 ぐらいを見据えて、やっぱりやっていかないといけないと私は思っておりますので、ぜひ目指していきたいと思っております。

記者

最後に、この前の 4 年間に達成できなかった理由はなんでだと、どういうところがあると、いちばん大きな理由はどこにありますか。

知事

いちばん大きな理由ですか。そうですね、そのこと自体をもっと調べなきゃいけないと思いますけれども、担当とも話し合い、また若者自身から聞いていかなきゃいけないと私は思っておりますし、そういう意味でも若者の希望実現ということを挙げているんですけれども、何を考えていいのか、実は今年度からちょっと始めてはいるんですけどもね、就職するにあたってどういうところに就職したいとか、そういうことをようやくですね、若者と一緒になって考える県民会議というようなことをですね、ちょっと立ち上げてましてですね、取りかかり始めているところなんですけれども、これ全国的なことともいえますが、なぜか南のほうが合計特殊出生率が高いんですよ。北のほうがやはりちょっとというと、完全に経済だけでもないのかなと思いますし、もっと意識がですね、いろいろ心配な点、不安な点はあっても大丈夫と、みんなで助け合ってなんとかできるからとか、してあげるからとかですね、そういう環境といいますか、社会的な雰囲気といいますかね、も

うちちょっと安心して一步踏み出せるというような環境、そういう土壌が今ひとつ足りなかったのかなというふうに思っています。

やはり、南の方と比べるとやっぱり北のほうがちょっと慎重な感じになっているのかなというふうには思います。経済的にあちらが上でこちらが下とかいうことではありませんので、そういった風土的なこともあろうかなとも思うんですけども、やはりもうちょっとね、気持ちを楽にして、活躍していいんだよとか、みんな期待してるんだよとかね、そういうプラス方向のことをちょっと伝えて、県内で何といたしますか、思ったことを行動できたり、一步踏み出せたりするような環境をですね、作っていく必要があるんじゃないかと思います。

記者

河北新報の宮崎です。県議補選の件に戻るんですけども、今日からですね、22日までの選挙期間中も含めてですね、知事は松田さんですか、に応援のマイク持つとかですね、あとまたそういった、なんていうか、会合とかに出席するとかそういったところで支持、具体的にですね、支持をする、活動として支持をすることがあるのかどうか、その辺のところどういうふうにお考えなのか教えてください。

知事

まだ、そうですね、具体的なことはちょっとまだ決めていないといたしますか、「考え中」ということでお願いしたいと思います。

記者

可能性、支援する可能性は、行動として支援する可能性はゼロではないってことですか。

知事

そうですね、どうしようかという、そのことも含めてちょっと「考え中」でお願いしたいと思います。はい。

記者

朝日新聞の米澤です。先ほどの3期目のほうにちょっと戻りますけれども、知事が詳細な公約に、公約の詳細について発表なさったのは12月のもう終わりのほうで、その前にもう概算要求が出ています。これからその若者の希望実現とか、知事のおっしゃった5つのチャレンジの中で、すでに概算要求の予算の中では一部そのテーマとかぶっているところもありますけれども、知事が新たに3期目に向けて出した公約の中身とですね、新たに出てきた部分もあるんじゃないかと思うんですけども、これから更に予算、知事査定とか

詰めていく中で、新たに付け加えていきたいとか、どういうふうにですね、もうすでに来年度予算を作る段階にきてると思いますけれども、これからですね、どうやって付け加えていくのか、加えるところは加える、改編するところは改編するとか、どういうふうにしていくのかというところですね、そこら辺をお伺いできればと。

知事

そうですね、おっしゃるように当初予算の概算要求ということで、内容が3期目の公約に掲げたものと共通してると思いますか、そういうものはあります。そういったものはいんですけれども、やはり共通していないと思いますか、公約に掲げて、さらについていうところがですね、まずあります。それは正社員化っていうのは、それはあったんですけれども、私が「力を入れるよ」ということをですね、申し上げました。ですから、そのことについてはさらにどういうことができるのか、そしてそれは県庁がですね、「こうしたいといったからこうなる」ということでもないの、実は経営者の方々とかですね、企業の現場の方々とのいろいろなやはり話し合いということも必要でありますので、そういったこともやりながらですね、もうこれは早急ということになりますけれども、情報交換というようなことをしながら、また連携どういうふうにしていけるかってことも話し合いをしながらですね、取り組んでいかなければいけないというふうに思っています。

また若者、「出前若者ミーティング」というようなことはちょっと今までいってませんでしたので、それはまったく新しいことであります。そのことをどういうふうにしていけるのかということをややはり早急に話し合いをして、考えなければいけないというふうに思っています。

いずれにしてもその公約にもう掲げておりますので、これはもう県民の皆さんとのお約束というふうに思っておりますので、もう初心にかえったつもりでですね、このことがしっかりと網羅されるように、すぐ全部ということになるかどうか分かりませんが、まずできるかぎり、今から入れられるようにですね、担当の部署の方々と話し合いをして、進めていかなければいけないと思っています。

1月ももう10日でありますので、時間はどんどん過ぎますので、これ（※注：3期目の公約）を掲げて、作っておりますので、これをですね、まずしっかりと理解してもらって、そしてどういうふうに事業として具体化していくかということでもありますので、さっそく作業に入ってもらって、そしてやりとりをしたいというふうに思います。はい。

記者

山形新聞田中です。県議補選についてちょっと戻って1点だけ教えていただきたいんですが、そもそも今回の西村山郡区の県議員補欠選挙ですね、どういった理由で行われることになったのかっていうその意味合いも含めて検討中、悩まれてるっていう判断材料に入っておられるっていうことになるんでしょうか。

要は阿部賢一さんの辞任に伴う補選だということも、今、知事ご自身がですね、支援行動をどうするか迷われてるんだっていうことの判断材料の 1 つになっているんだっていう認識でよろしいんでしょうか。そのことあんまり考慮されずに、その要素を除いて、今どうしようかを検討しているんだっていうことになるんでしょうか、どちらになるんでしょうか。

知事

はい、その要素は除いて考えてみたいと思っています。やはり西村山郡の 4 つの町ですね、県議会議員 2 名ということになって、1 名はもうちゃんといらっしゃるわけでありますので、あと 1 名ということになります。その地域の発展のために、どなたがよいのかというふうになると思いますので、そのことについてしっかりと考えていきたいというふうに思っております。